

バリシチニブと間質性肺炎の急性増悪 (呼吸器内科)

臨床研究の名称	間質性肺炎の急性増悪に対する バリシチニブの有効性の後方視的検討
研究責任者の所属・氏名	呼吸器内科 医師 山川 英晃
研究の概要	<p>【目的】 間質性肺炎は特発性、膠原病性、過敏性肺炎など多彩な原因により起こりうる疾患であり、いかなる理由においても進行性の経過を示し、その一群は予後不良の転帰をたどります。関節リウマチの治療薬として承認されているヤヌスキナーゼ阻害薬、「オルミエント」(バリシチニブ)は、サイトカインが炎症に関与するとされる関節リウマチに適応をもつ製剤です。間質性肺炎の急性増悪では、重症化の一つの機序としてサイトカインストームという過剰な炎症が関与していると考えられており、バリシチニブは、このサイトカインストーム等の過剰な炎症反応を抑えることにより、同疾患の重症患者に効果を発揮するのではないかと期待されています。間質性肺炎の急性増悪による致死率は非常に高いことが知られており新規薬剤の有効性を現在も模索されている重要な検討課題ですが、いまだ有効な治療薬が確立させていないのが現状です。近年新型コロナウイルス肺炎で同薬の有効性が報告されてから、間質性肺炎の急性増悪に対してもバリシチニブの有効性の可能性が注目されています。そのため重症化が懸念される、もしくは重症例の間質性肺炎の急性増悪に対し、バリシチニブ投与をした患者の有効性を明らかにすることを目的として後方視的に検討します。</p> <p>【対象患者】 当院において2021年1月1日から2026年4月30日までに間質性肺炎に対してバリシチニブ(オルミエント)の投与を受けられた患者様。</p> <p>【研究期間】 臨床倫理委員会承認後から2027年3月31日まで</p> <p>【方法】 間質性肺炎の急性増悪の診断時の身長・体重や検査値・画像および臨床経過を調べ、適切な解析手法により検討する。</p> <p>【使用する情報】 年齢・性別・検査結果(血液・呼吸機能・画像)・身長・体重・臨床経過</p> <p>【個人情報の取り扱い】 本研究で取り扱うすべての臨床情報は名前や住所など患者様個人を特定できる情報を除き、院外へ持ち出すことはなく管理するため情報が外に漏れることはありません。また研究結果を学会や論文などで報告する場合も、報告内容に個人を特定できる情報は一切含みません。もし患者様より情報提供を拒否する申し出があった場合は速やかに研究利用対象からはずさせていただきます。ただし研究結果を報告した後の申し出については対応しかねる場合があります。</p>
問い合わせ先	呼吸器内科 医師 山川 英晃 〒330-8553 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地5 さいたま赤十字病院 電話番号 048-852-1111 (代表)